

秋田市教育委員会  
会 議 録

令和元年9月定例会

秋田市教育委員会令和元年9月定例会会議録

- 1 日 時 令和元年9月25日(水)  
午後3時30分～午後5時10分
- 2 場 所 5-A会議室
- 3 出席委員 教育長  
教育委員  
教育委員  
教育委員  
教育委員
- 4 出席職員 教育次長  
教育次長  
学校適正配置推進室長  
総務課長  
学事課長  
学校教育課長  
教職員室長  
教育研究所長  
学校適正配置推進室参事  
生涯学習室長  
秋田商業高等学校事務長  
秋田商業高等学校教頭  
御所野学院高等学校校長  
御所野学院高等学校事務長  
美大附属高等学院事務長  
美大附属高等学院副校長  
総務課長補佐  
総務課副参事  
学事課長補佐  
学事課副参事  
学校教育課長補佐

生涯学習室長補佐  
総務課主席主査  
総務課主席主査  
学事課主席主査  
学校教育課主席主査  
総務課主査  
教育研究所主査  
総務課主任  
総務課主任

## 5 議 題

### 【付議案件】

議案第17号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

### 【教育長等の報告】

- (1) 令和2年度秋田市立秋田商業高等学校の生徒募集公告について
- (2) 令和2年度秋田市立御所野学院高等学校の生徒募集公告等について
- (3) 令和2年度秋田公立美術大学附属高等学院の生徒募集について
- (4) 平成31年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

## 6 議 事 午後3時30分開会

### 【令和元年8月定例会会議録の承認】

令和元年8月定例会会議録について、異議がないため承認された。

### 【会議録署名委員の指名】

教育長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

### 【付議案件】

議案第17号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

教育長 議案第17号「教育委員会事務の点検・評価に関する件」  
について、事務局から説明願う。

総務課長  
学校教育課長  
学事課長  
学校適正配置推進室参事  
生涯学習室長

(資料に基づき説明)

委員 学識経験者からは、おおむね良い評価をいただいている  
ようで、良かったと思う。学識経験者の意見や指導を、  
今後の教育委員会事務に十分にかしめていただきたい。

また、「教育委員会事務の点検・評価報告書」16ペー  
ジの施策3「食育の推進」について、リーフレットを作成

しているそうだが、もらうことはできるか。

学校教育課長 今年度のリーフレットは現在作成中である。昨年度作成したものについては、今、手元に無いため、後ほどお渡しする。

委員 「教育委員会事務の点検・評価」は、教育ビジョンで立てた計画の途中経過の採点のような位置づけであると思う。学識経験者の意見を見ると、良い評価をいただいている印象である。報告書を作成して終わるのではなく、それぞれの項目でいただいた意見を、しっかりと今後の事務に反映していただきたい。

また、同報告書22ページに「研修受講者の変容や、授業での活用などの記述があるとよい。」と記載があるが、この指摘については、すぐに実践できる取組もあるのではないか。既に実施した取組などはあるか。

教育研究所長 研修受講者を対象に、研修後の変容とその後の授業実践についてのアンケートを行っている。今後、アンケートの回答をまとめていきたいと考えている。

委員 「研修受講者の変容や、授業での活用などの記述」については、翌年度以降の報告書に追加していくのか。

教育長 今回学識経験者からいただいた意見については、今年度以降の事務に反映させ、その上で、研修後の変容とその後の授業実践についてまとめたものを翌年度以降の報告書に記述していくことになろうかと思う。

委員 学識経験者の意見については、文面をそのまま解釈するのではなく、真意を読み取ることが必要ではないか。柔らかい表現で書かれているが、「早急に対応していただきたい」という旨の意見も多いように感じる。予算や設備など様々な問題があると思うが、スピード感を持って今後の対策を進めていただきたいと思う。

学校訪問で一番目に付くのは、学校の設備や建物の老朽化など、ハード面の整備不足である。限られた予算の中で、すぐに解決できない問題もあると思うが、危険な箇所も見受けられるため、しっかりと情報を共有し、子どもたちが安全な学校生活を送れるよう配慮していただきたい。

総務課長 学校施設については、現在、秋田市学校施設長寿命化計画の5か年計画に従い、順次対応しているところである。毎年度、年度当初に当課の職員が全ての学校を回り、老朽化具合等を把握し、優先順位を付けながら改修を進めている。おおむね、当初の計画通りに進んでいるが、老朽化具合が激しいために前倒しで整備しなければならない施設や設備もある。

来年度は、今回の5か年計画の最終年度で、次期5か年計画を立てることにもなるため、現状を確認しながら、必要な予算要求に努めていきたい。

委員 同報告書39ページの学識経験者の意見等の中で「ビジネス実践について新たな取り組みを検討した結果が、令和元年度以降の取り組みにつながっていると考えて良いか。」と疑問形で終わっている記述があるが、これについて何か回答をしたのか。

学校教育課長 実際の内容そのものは「考えて良い」ということとなっているが、最終的に記載する文章については、再度確認する。

委員 同報告書は、最終的にホームページに掲載するものであり、「良いか」で終わる文章は、意見としては違和感があるので、確認していただきたい。（※この内容については、学識経験者に確認した結果、同報告書の記述を「ビジネス実践について新たな取り組みを検討した結果が、令和元年度以降の取り組みにつながっている。」と修正することとなった。）

※ 議案第17号については、全員賛成により、議決された。

#### 【教育長等の報告】

(1) 令和2年度秋田市立秋田商業高等学校の生徒募集公告について

学事課長 (資料に基づき説明)

委員 入学検定料が昨年と同額で2,200円となっているが、消費税の増税に伴い検定料を変更することはないのか。

学事課長 消費税の増税に関係なく、2,200円である。他の秋田市立高校と秋田県内の公立高校も同様である。

※ 令和2年度秋田市立秋田商業高等学校の生徒募集公告については、以上のとおり終了した。

(2) 令和2年度秋田市立御所野学院高等学校の生徒募集公告等について

学事課長 (資料に基づき説明)

委員 実施要項の「6 選抜方法」について、「作文および面接を課す」とあるが、ここで課す作文や志願理由書などは、校長先生が全て一人で確認するのか。

御所野学院高等学校長 選抜に係る委員会を設置し、複数人で作文等を確認する。その上で、校長が最終的な判断をする。

委員 委員会の構成人数はどの程度か。

御所野学院高等学校長 10人程度である。

委員 新しい選抜方法を実施するに当たり、「新たに学校を造り変えていく」という意気込みを感じた。試験実施のための準備は大変と思われるが、ぜひ、頑張っていたきたい。

委員 連携型中高一貫入学者選抜は初めての実施ということだが、滞りなく行っていただければと思う。

公告の「5 出願資格」によると、2次募集について、「秋田県公立高等学校の一般選抜を受検し、合格していない者」が対象者となっているが、「4 入学志願者検査日(3)一般選抜」を見ると、試験内容が「作文および面接」となっている。2次募集では、受検者の一般選抜における学力検査の結果は考慮しないのか。

学校教育課長 2次募集においては、一般選抜における学力検査の結果を考慮する。

委員 「作文と面接のみで試験を行い、学力検査の結果は考慮しない」と誤解されないか。

教育長 秋田県公立高等学校入学者選抜実施要項の表記と同一にしている。

委員 実施要項の「9 受検に際して特別な配慮を必要とする

障がい等のある生徒の出願」については、連携型中高一貫入学者選抜だけではなく、一般選抜等においても、同様の配慮をするということ間違いはないか。

御所野学院高等学校長 秋田県公立高等学校入学者選抜実施要項では、全ての試験について、「受検に際して特別な配慮を必要とする障害等のある生徒の出願」という項目を設け、同様の様式の申請書を用意している。本校の一般選抜等についても、同じ配慮となる。

委員 入学を希望している生徒の数や各中学校における印象について、現段階での情報を聞かせてほしい。

御所野学院高等学校長 連携型中高一貫入学者選抜の実施にあたり、春先から、さまざまな形で本校について情報提供を行ってきた。広報あきたやホームページ等でも、連携型中高一貫入学者選抜の実施を周知し、7月には、秋田市内の全ての中学校を、私と教頭で手分けして訪問するなどした。初めての実施に当たり、さまざまな意見があるが、生徒が集まることを期待する声も聞かれ、励まされることもあった。7月23日に体験入学を実施したころ、生徒や保護者、教員等を含め、100名程度の参加があった。この件に関しては、秋田魁新報にも取り上げられた。また、今後、秋田市中学校長会において、御所野学院中学校の校長先生を通し、本校の紹介をしていただける予定である。

今後も生徒募集に努めていくが、実際にどの程度の人数が集まるかについては、今のところ分からない。

委員 生徒だけでなく、保護者の方への周知活動も実施していただきたい。

※ 令和2年度秋田市立御所野学院高等学校の生徒募集公告等については、以上のとおり終了した。

### (3) 令和2年度秋田公立美術大学附属高等学院の生徒募集について

美大附属高等学院副校長 (資料に基づき説明)

教育長 前期選抜と後期選抜の試験科目や実施方法、出願資格な



どが同一であるようだが、試験を前期と後期に分けているのはなぜか。

美大附属高等学院 校長 前期選抜に受からなかったがどうしても本校で学びたいという子どもたちや、1月頃まで進路を迷っている子どもたちを考慮し、併願を可能にした上で、後期選抜を実施している。

なお、後期選抜は、鉛筆デッサンの点数を前期選抜の2倍にしている。鉛筆デッサンの点数については、前期選抜が100点、後期選抜が200点である。志のあるさまざまな子どもを集めたいという理由から、配点を若干変更している。

※ 令和2年度秋田公立美術大学附属高等学院の生徒募集については、以上のとおり終了した。

#### (4) 平成31年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

教育研究所長 (資料に基づき説明)

教育長 「平成31年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について」11ページ「中学校英語 領域ごとの調査結果の主な特徴」の「課題となっている問題例」について、本市の正答率は2%ということだが、全国の正答率はいくらか。

教育研究所長 全国および秋田県の正答率は、共に2%であり、難易度の高い問題であった。

教育長 正答率を見ると、国が求めている学力と、実際の教育現場での英語の指導状況との間に乖離があるのではないかという感想を持つが、どうか。

教育研究所長 本市の中学校では、自分の考えを英語で表現するような授業は、しっかりと行っている。誤答の内訳を分析したところ、文法ミスが割合が35%、25語以上の英語で書くことができなかつたため不正解となった割合が33%という状況である。

中学校の現状では、国が求めている学力の水準に到達するまでには時間がかかると思われるが、学校現場に対して

は、子どもたちが英語を使って自分の考えを書き表していく力を身につけられるよう指導していかなければならないと感じている。

教育次長

中学校の英語の授業では、ペアによる活動において、一人称「I」と二人称「You」を使った表現が多く、英作文においても、同様の傾向が見られる。この度の問題の正答例では、「It」という三人称の主語を多用しているが、中学校の授業の状況からみて、「It」という三人称を使う表現は難しいと思われる。

英語を使ってコミュニケーションを取る際に、目の前の状況を相手に伝えるということは、高度だが必要であると思う。外国人と会話をする場合は、一人称や二人称だけでは状況を伝えきれないことから、授業では、三人称を使う表現をもう少し扱うべきだと感じている。このことは、全国学力・学習状況調査のために指導を行っていくのではなく、あくまでも英語のコミュニケーション能力をつけるという目的で指導を行うべきと考えている。

委員

問題例の内容自体も難しいものであり、授業の中で子どもが用いる英語との乖離も見られる。中学校の英語の教員の指導は間違っていないと思われる。この問題例も意識して、新たな取組をしてほしいと、研修会や学校訪問等で伝えていただきたい。

委員

同資料13ページから17ページまでに記載の「児童生徒質問紙調査の結果から」を見ると、本市の児童生徒は、自己有用感などを持っているように感じる。

また、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、図書室や地域の図書館に月1回以上行く子どもの割合」と「これまでに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した子どもの割合」が低いことがわかる。図書館の利用については、秋田市では、学校司書を配置するなどしているが、まだ直接結果に結びつくには至っていないように感じる。ICTについては、設備の環境の問題もあるため、一概には言えないが、調査内容として記載されているということは、学校

現場に求められていることであると思うので、家庭学習なども活用しながら、うまくICTが使える、かつ、情報リテラシーを持つ子どもが育つよう改善に努めてほしい。

教育研究所長

図書室や地域の図書館の利用率については、経年で見ていくと、少しずつ増加している。学校司書等の配置によって、少しずつ子どもたちが図書室に足を運ぶようになってきていると感じている。

この項目については、例年全国より低い結果が続いているが、「読書が好きかどうか」については、本市の子どもは、全国と比較すると、5～7ポイント程度良い結果が出ている。「実際に本を読んでいるかどうか」についても、短時間で本を読んでいることも考慮すると、全国よりも、中学校は7ポイント以上、小学校でも1～2ポイントほど良い状況なので、本市の子どもたちが本に親しんでいないとはいえない。

図書室や地域の図書館を利用する子どもの割合が低いことについては、図書室の本の一部を図書コーナーとして各教室に設置するなど、図書室や地域の図書館に行かなくても近くで本に親しめるような活動がどの学校でも行われていることが要因の一つであると思う。図書コーナーを設けることは非常に意味のあることであるため、継続しつつ、図書室や地域の図書館の利用についても促進をしていかなければならないと考えている。

委員

この項目は、図書室や地域の図書館に行く子どもの割合についての調査であり、子どもたちに「図書室や地域の図書館に行くかどうか」と質問すれば、素直に回答し、このような結果になるだろう。だからといって、子どもたちが本に親しんでいないということではないと思われる。

学校教育課長

1日の読書時間については、平成29年度と平成30年度を比較すると、小6、中3ともに「2時間以上」「1～2時間」「30分～1時間」のいずれの項目もポイントが増加しているため、子どもたちの読書量は増えていると認識している。学校司書の配置もあり、「本は図書室にあるもの」という考えは無くなってきている。学校司書につい

ては、十分に機能していると感じている。

教育次長

「読書の記録帳」をきっかけに、新しく地域の図書館に足を運ぶ子どもが1000人以上増えている。継続していくことで、地域の図書館を利用する児童生徒の数も徐々に増えていくと思われる。

学校の図書室についてだが、中学校では、部活動や教科連絡の関係上、昼休みや放課後に図書室に行くことができる生徒がどうしても少なくなってしまう。小学校についても、昼休みに一斉読書を行っている学校があるため、その時間に図書室を利用する児童は少ない。

委員

この調査結果を見て、本市の子どもたちが健やかに成長しているということがわかり、とても安心した。また、問題点も明確になり、これから、どこに焦点をあてるべきかがよくわかったと思う。これまでの話を踏まえると、学習環境についての一番の問題はICTについてであると思う。今後、対応に努めてもらいたい。

教育研究所長

ICTについては、機器の使いやすさ、機器を使うことの意味の理解など、ハード面、ソフト面の両面から対応していきたい。

学事課長

学校でICTを扱うための環境整備に関しては、学事課でも一部対応をしている。予算の範囲内で、ICTを扱いやすい環境の整備を着実に進めていきたい。

※ 平成31年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果については、以上のとおり終了した。

#### 【その他、事務局から】

教職員室長

全市一斉授業研究会への参加について説明する。

全市一斉授業研究会は、授業力向上をねらいとして、平成22年度より開催している。教育委員の皆様には、希望により、教育委員会事務局職員の随行のもと、授業を参観していただく。

昨年度から、小・中学校の全市一斉授業研究会が隔年で開催されることとなり、今年度は、11月13日（水）に

小学校の全市一斉授業研究会が開催される。

については、教育委員の皆様には、参加希望の有無、参加を希望する場合にはご覧になりたい授業会場を、10月25日（金）までお知らせくださるようお願いする。

**【その他、教育委員から】**

委員                    10月の学校訪問についてだが、所用により、欠席させていただきます。ご迷惑をおかけするが、よろしくお願いする。

**【その他、今後の日程についての報告】**

総務課長補佐        10月定例会の日程についてお知らせする。定例会は、原則毎月第4木曜日としているが、10月定例会については、10月31日（木）午後3時30分からを予定している。第4木曜日は、教育長が他の公務と重なる予定であることから、このように変更するものである。日程調整のほど、よろしくお願いする。

教育長                10月定例会は、10月31日（木）午後3時30分からとする。委員の皆様、日程調整をお願いする。

午後5時10分閉会

